

## 大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策

生田委員	
川口委員	コレクティブインパクトについて
古崎委員	シビックテック（ITを活用して地域を良くしようという活動）コミュニティとの連携
豊嶋委員	1. 地域活動協議会と各地域団体の担うべき役割分担の明確化 2. 子育てにおけるサポートの拡充とバリアフリー化
永井会長代理	
長尾委員	
中川委員	活力ある地域社会づくり方策について
新川会長	
久木委員	「活力ある地域社会実現に向けて」
藤原委員	～コミュニティへの参画および発展寄与～ 株式会社マンダムにおけるCSR推進活動例
堀野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託等の事業を協働で進めるときの進め方について</li> <li>・地域活動協議会の支援のあり方について</li> <li>・認定NPO法人について</li> </ul>
増田委員	市民に地域社会づくりを他人事にさせない仕掛けづくりとは

## 大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策

次回審議会での審議の参考とするため、「大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策」についてのご意見や、知っておられる事例等がありましたら、次の欄にご記入ください。

テーマ等	コレクティブインパクトについて
ご意見事例等	<p>市民活動は、テーマ型と地縁型と分けられると思いますが、特にテーマ型の活動に関して有効な、「コレクティブインパクト」という事例のご紹介です。</p> <p>***</p> <p>テーマ型の活動の課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の支援団体との連携をとるのが難しい</li> <li>・社会課題の解決に寄与しているという実績・データを出しにくいというものがある</li> </ul> <p>これらを解決するために、コレクティブインパクトの手法を用いて、社会課題の解決度合いを可視化し、連携する基盤を作る。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題の解決を促進したい社会課題の決定</li> <li>2. 調査</li> <li>3. 数値目標の策定（例：大阪市の路上生活者 100 名に路上脱出の機会の提供）</li> <li>4. その目標が達成された際の社会的インパクト（税金の削減額）等を算出</li> <li>5. 助成金額を決定</li> <li>6. 助成団体の募集・決定</li> </ol> <p>といったような形である。</p> <p>*参考*</p> <p>コレクティブインパクト  <a href="http://www.sroi-japan.org/">http://www.sroi-japan.org/</a></p> <p>社会的インパクト評価イニシアチブ  <a href="http://www.impactmeasurement.jp/">http://www.impactmeasurement.jp/</a></p> <p>SROI ネットワークジャパン  <a href="https://collectiveimpactforum.org/">https://collectiveimpactforum.org/</a></p>

## 大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策

次回審議会での審議の参考とするため、「大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策」についてのご意見や、知っておられる事例等がありましたら、次の欄にご記入ください。

テーマ等	シビックテック（ITを活用して地域を良くしようという活動）コミュニティとの連携
ご意見事例等	<p>シビックテックと呼ばれる「市民がITを活用して地域を良くしようとする活動」が全国の各所で行われており、その活動主体としては各地でCode for（コード・フォー）X（Xは各地域名）と呼ばれる集まりが設立されている。</p> <p>Code for は、アメリカで設立されたCode for America (<a href="https://www.codeforamerica.org/">https://www.codeforamerica.org/</a>)に端を発している。</p> <p>日本では金沢市で設立されたCode for Kanazawa (<a href="http://www.codeforkanazawa.org/">http://www.codeforkanazawa.org/</a>)が最初で、その後、各地のCode for をまとめるCode for Japan (<a href="http://code4japan.org/">http://code4japan.org/</a>)が設立された。</p> <p>Code for Japan が提供する支援プログラムに参加している各地のコミュニティはブリゲード (<a href="http://code4japan.org/brigade">http://code4japan.org/brigade</a>) と呼ばれ、2016年7月29日時点では公認団体が39、公認準備中が22団体ある。</p> <p>大阪市においては、2014年度に行われた市民局による事業（大阪から考えるCivic Tech）の流れを受けて、2016年4月にCode for Osaka が設立された（Code for Japan のブリゲードについては公認準備中）。Code for Osaka では、2016年4月20日に行われたキックオフミーティング以降、毎月1回の定例会を開催し、シビックテックに関わる情報交換と参加者の交流を行っている。</p> <p><b>Code for Osaka</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－公式サイト <a href="http://code4.osaka/">http://code4.osaka/</a></li> <li>－Facebook ページ <a href="https://www.facebook.com/groups/code4osaka/">https://www.facebook.com/groups/code4osaka/</a></li> </ul> <p>「大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて」このような、Code for をはじめとするシビックテックのコミュニティとの連携は、一つの重要な方策であると思われる。</p> <p>Code for Osaka は「ITの活用」という以外は、特定の課題に特化した活動をしているわけでは無いため、「ITの活用が期待される地域課題（ニーズ）」を持つコミュニティと交流の場ができると、双方にとって良い連携が生まれる可能性がある。ただし、その際には、双方のコミュニティが互いの立場や考えを尊重し、「お互いが協力して、地域をよくしていこう」という気持ちで連携できるような体制を作ることが重要となる。</p> <p>2015年度の市民局の取り組みでは、100人会議と連携したイベントも開催された先例があるが、同様な取り組みを継続するかを含め、良い連携の形の検討が必要とされる。</p> <p>また、IT（特にオープンデータ）を活用した地域課題解決の取り組みについては、アーバンデータチャレンジ（※）、LODチャレンジ（※）、マッシュアップアワード（CIVICTECH部門）などのコンテストも開催されており、そのような取り組みを連携のきっかけとするとも考えられる。</p> <p>（※の2つのコンテストについては、大阪市も協力関係にある。）</p>

## 大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策

次回審議会での審議の参考とするため、「大きな公共を担う活力ある地域社会づくりに向けて本市が取り組むべき方策」についてのご意見や、知っておられる事例等がありましたら、次の欄にご記入ください。

テーマ等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域活動協議会と各地域団体の担うべき役割分担の明確化</li> <li>2. 子育てにおけるサポートの拡充とバリアフリー化</li> </ol>
ご意見事例等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各区・各地域により活動内容や実施状況に違いがあるのは地域によるニーズの違いではあるものの、活動そのものが活発でなかったり各団体の担う範囲が明確でなかったりするために取りこぼされている部分をいかに拾い上げて地域に示していくか、担う範囲を明確にした上で各区・各地域の取り組み内容を互いに共有しシェアしあえる仕組みを構築し各地域の格差がないようにする。</li> <li>2. 幼稚園の保育時間外の預かり保育・小学生のいきいき事業など幼児・児童の居場所は作られているものの、中学生以上の子どもたちの居場所がない。各中学校もしくは公共の場所においてボランティアの地域住民や大学生による相談相手や学習サポートなどがあれば、家族が仕事などで不在がちな家庭の子供たちの居場所になるのでは。また、子育ての悩みなど親の話し相手にもなれる場所であれば尚良い。この審議会には当てはまらないかもしれないが、子育てにおける深刻な相談などで私学に通学する子どもへの対応は市担は担当ではないという理由で府に相談するように促される。市民であり、子どもを地域で見守り育てる意味で市での対応を望みたい。</li> </ol>

■ 平成25年3月 大阪市における地域活動・地域課題に関する住民の意識調査

○ 地域活動・ボランティア活動をしているか

・ 活動している	22.7%
・ 活動していないが興味がある	57.0%

⇒ 活動者は潜在的にいる  
活動の入り口がわからない人が多い

○ 地域活動を始めたきっかけ

・ 知人などから誘われた 頼まれた	53.1%
・ 地域の慣例として活動するのがあたりまえだった	41.4%

⇒ 外部からの誘い、要請がきっかけで、自発的に活動を始めた人は多くない

■ 広報誌 大阪の社会福祉（大阪市社協）で若手地域活動者の声を発信

連載「世代をつなぐ地域活動者に聞く」 平成26年4月～

・ 活動のきっかけ
・ 魅力
・ 活動を広げるアイデア など

現在まで23人（19区）にインタビュー

■ 新たな参加・担い手の育成

○ 新たな人材の特性を理解 配慮

子育て世代・就労世代

・ 時間的制約への配慮
・ 生活課題、地域課題への当事者性、責任感、活動力

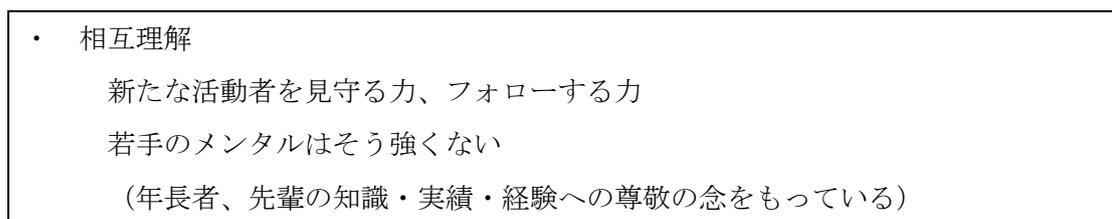
在勤・在学者

・ 地域に対して疎外感や遠慮を抱いていることも
-------------------------

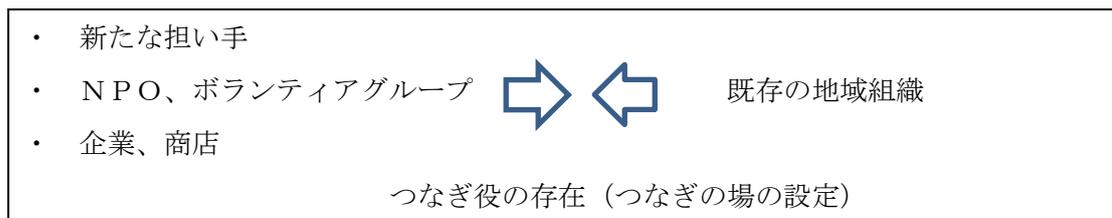
地域で活かせる経験・知識・強み

・ 仕事、趣味などで培った知識、スキルを楽しく活かす
・ 面白そうなこと、やりたいことの発想力、企画力を活かす

○ 実績・認識不足による躊躇



○ さまざまな世代・活動者をつなぐ役割



■ 新たな担い手はどのような活動に魅力を感じるか (想像)

